

YWVOB会 会報 No.42

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://ywvob.com/>

2009年 9月 1日発行

～ 42号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・1	・YWVOB 会メルマガの発行について・・・・・・9
・第2回・第3回 OB 役員会報告・・・・・・2	・第4回横浜国大ホームカミングデー案内・・・・10
・2010年度 OB 総会案内・・・・・・・・・・・・・3	・自由投稿（山と短歌と私）・・・・・・・・・・11
・第25回 OB 山行（皇海山）報告・・・・・・4	・YWV 現役部員の活動紹介・・・・・・・・・・13
・第26回 OB 山行（荒船山）案内・・・・・・5	・OB 会費納入のお願い・・・・・・・・・・・・・14
・苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・6	・OB 会報の発送と OB 会費未納について・・・・14
・YWV ホームページの閲覧方法について・・・・8	・編集委員からのお知らせ・・・・・・・・・・15

■ YWVOB会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男（9期）

OB 総会と懇親会の開催をご案内する会報となりました。

古くは、1999年は経営学部の教室で40名が参加、2000年は蓼科温泉に宿泊して31名、ずっと飛んで、2005年には常盤台キャンパスで開催の大学祭に合わせて21名（+現役3名）、2006年は横浜クルーズ・クルーズで26名、2007年は創部50周年記念行事に合わせて横浜国大附属中（弘明寺）で88名、2008年はHCDに合わせて教育人間科学部の教室で31名（+現役1名）と開催場所を変化させてきています。

今年は昨年と同様にHCDに合わせて総会を開催することを8月の役員会で決定しました。なお役員会の参加者は、1月が17名、4月が15名、3回目の8月が16名と以前よりもかなり多く参加して熱心に議論をしています。

本年度は早や4分の3を過ぎましたが、①苗名小屋での活動が活発化、②役員会も含めて数期が合流した懇親の場の増加、③HPの充実化と共にメルマガを発行し、会員交流の展開、④種々の山行やイベントの活発化などが上げられるかと思えます。

OB 総会は本年度の活動報告と次年度の活動計画を審議する場ですので、皆様ご都合を付けて是非ご参加を願うとともに、緑豊かな常盤台キャンパスで第4回目を迎えるHCD（ホームカミングデー）の種々の行事をお楽しみ下されば幸いです。



2008年11月のOB総会の風景



2008年のHCD懇親会籤引きで、ワンゲル5人が当選

■ 第2回・第3回 OB会役員会報告

幹事長 石川 真 (41期)

副幹事長 西田 雅典 (20期)

<第2回 OB会役員会報告>

4月18日、川崎市多摩市民館でOB会役員会を開催しました。15人の役員が出席し11月の総会の開催方法、メルマガの導入・運営方法、各委員会報告などについて活発な議論が交わされました。

【出席者】 嘉納 (1)、吉野 (2)、吉村 (3)、松本 (8)、鈴木 (9)、安藤 (11)、榎本 (12)、山口 (18)、
 笛木 (19)、西田 (20)、武藤 (20)、白木 (21)、横溝 (21)、小野 (34)、塩野 (46) 計 15名

【議事：要旨】

1) 各委員会報告

- ・OB 小屋委員会・・・雪下ろし3回実施済み、山菜と蕎麦を食べる会計画 (6/6~7)、夏の小屋山行計画 (8/15~16)、小屋整備計画 (9/19~23)
- ・OB 山行委員会・・・OB 山行・皇海山行計画 (5/16)、メルマガを活用して参加者を拡大する
- ・編集委員会・・・OB 会報 42号について内容、担当確認
- ・総務委員会・・・メルマガ作成の打ち合わせ実施 (4/10)
- ・部史編纂委員会、HP 委員会、会計幹事・・・特記事項なし

2) 2010年度 OB 総会の開催について

- ・横国大のホームカミングデー (11月8日) に YWV の要望 (総会会場や懇親会の方法) が通れば同日実施とする。次回役員会までに鈴木会長が大学と交渉する。

3) メルマガについて

- ・編集委員：横溝、武藤、西田
- ・4/5 初回トライアル送信済み
- ・原則毎月初一回発行
- ・会員へタイムリーな情報を発信する
- ・返信時には連絡用として専用メールアドレス設定
- ・現時点では連絡機能中心だが徐々に一般投稿促進
- ・メルマガの愛称をつけたほうがよいか?
- ・情報セキュリティ、個人アドレスセキュリティ ⇒ 問題ないことを確認
- ・メルマガはテキスト中心の情報交換媒体であり OB 会報は継続

4) 次世代シニアの活性化について

- ・次世代シニアのあり方
- ・新シニア OB 会の名前を考えてはどうか
- ・期ごとの連帯感をまず高めることが重要 (山行以外も含めて)
- ・現役との距離が離れている
- ・9~12 期くらいの幅だと真中の期を中心に連帯が生まれるか

<第3回 OB会役員会報告>

8月1日、川崎市多摩市民館で16人の役員が出席し活発な議論が交わされました。

終了後は有志で向ヶ丘遊園駅前の居酒屋にて懇親会を行い、世代を飛び越えた楽しい宴となりました。

【出席者】 嘉納 (1)、吉野 (2)、吉村 (3)、松本 (8)、鈴木 (9)、下村 (10)、榎本 (12)、山口 (18)、
 笛木 (19)、西田 (20)、武藤 (20)、白木 (21)、横溝 (21)、小野 (34)、後藤 (39)、石川 (41)
 計 16名

【議事：要旨】

1) 2010年度 OB 総会について

鈴木会長から HCD 事務局との調整結果が報告され、HCD と同日に同会場で総会を行うこととなった。

2) メルマガ 4号の内容確認

3) 各委員会報告

- ・OB 小屋委員会・・・8月小屋山行、9月小屋改修活動について
- ・OB 山行委員会・・・5月(25回)皇海山報告、荒船山(10/17)予定

- ・編集委員会 次回 OB 会報 42 号について(9/1 発行予定)
- ・総務委員会 5 月～6 月メルマガ 打ち合わせ
- ・部史編纂委員会 部室にある史料のデータ化推進
- ・HP 委員会 検索状況・予算報告
- ・会計幹事 収支は健全化。ただし活動規模が拡大しており 寄付促進を検討する必要がある

☆ 次回役員会 : 2009 年 10 月 24 日 (土)
14:00～17:00
場 所 : 多摩市民館 (4 階 会議室)
(小田急線向ヶ丘遊園駅北口から徒歩 5 分)

※幹事長の石川さん(41 期)に第二子が誕生しました。
おめでとうございます!!

2010 年度 OB 総会案内

会 長 鈴木弥栄男 (9 期)
総務委員長 横溝 真司 (21 期)

今年も YWVOB 総会を横浜国立大学ホームカミングデーに合わせて開催致します。YWV の懇親会も昨年同様、ホームカミングデーの交流会々場にて実施します。

みなさん、11 月 8 日は是非常盤台キャンパスにお越し下さい。

【日 時】 2009 年 11 月 8 日 (日) 10:30～12:30 YWVOB 総会 (受付は 10 時から 役員は 9 時 30 分集合)
13:30～14:45 HCD メイン講演
15:00～17:00 YWV 懇親会 (HCD 交流会のなかで実施)

【場 所】 横浜国立大学 常盤台キャンパス (教室番号は追って参加者にご案内します)

タイムスケジュール	YWV OB 総会	ホームカミングデー
9:30～		受付開始
10:00～	受付開始	
10:30～12:30	OB 総会	
12:30～13:30	昼休み (昼食各自:教室使用可)	
13:30～15:00		メイン講演 中西 準子 元横浜国立大学教授 (現 独立行政法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門長)
15:00～	懇親会 (ホームカミングデーの交流会と同会場で実施)	

【ホームカミングデー問い合わせ先】

ホームカミングデー事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1横浜国立大学内

教育文化ホールHCDルーム TEL:045-339-3158(不在の時もあります)

URL <http://homecoming.ynu.ac.jp/>

※懇親会費用は4000円で、事前にホームカミングデー事務局にお振込みになると3000円になります。

(OB総会にもご参加いただくと、更に特典があります。是非OB総会+懇親会のご参加を!)

※OB総会につきましてはYWV ホームページと、メルマガでも詳しく配信します。是非ご覧下さい。

■ 第 25 回 OB 山行（皇海山）報告

OB 山行副委員長 小浜一好（17 期）

日 程：2009 年 5 月 16 日（土）

参加者：嘉納、吉田(1)、吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、小林、林(7)、松本、早坂、佐木(8)、下村(10)、安藤(11)、榎本(12)、狩野、小口(14)、山下、小浜(17)、山口(18)、安武、水田(20)、小野(34) 計 21 名

昔は足尾の庚申山経由で山中泊しないと登れなかった皇海山。『颯爽と峰頭をもたげ、一気に下の沢まで落ちている姿は思わず脱帽したいほど気品をそなえていた』と百名山に数えられている。筆者は 30 年ほど前の現役時代、5 月の残雪期に山中 3 泊の行程で足尾から皇海山に登り、日光中禅寺湖に下りた経験がある。

その時の山行については今回も同行した 17 期山下氏に「これまで山でバテたことが 2 回あるがその中の 1 回」と言わしめる山行であった。まさに『皇海山は今なお静寂の中にある』雰囲気の色濃く残り、踏み跡も定かではなく道に迷い山中で逢った登山者は皆無であったと記憶している。

それが今、栗原川林道の開通により日帰り登山が可能な山となった。しかし、今にも崖崩れが起きそうな悪路で名高い林道 20km を 1 時間の緊張するドライブ、運転手の皆様にはお疲れ様であった。

何年前か前、皇太子殿下がこのルートを使って皇海山の登山を楽しまれたそうで、その折、林道や登山口である皇海橋のトイレ、駐車スペースも整備されたそう。登山道も十分わかりやすく今時は百名山ツアーで登る人も多らしい。隔世の感、これあり。



集合は 8 時半に関越沼田 IC から 10 分ほどの道の駅「白沢」。ここは下山後お楽しみの温泉施設「望郷の湯」が併設されている。今回の初参加は、久しぶりの 20 期代、安武、水田の両氏。それぞれ住まいが那須塩原、高崎と地の利を生かした参加であったが明るいキャラに山行の雰囲気もさらに弾んだ。登山が久しぶりとのことだったが、これを機会に登山靴を購入するとの入れ込み。今後の常連化に期待するとともに、これを契機に 20 期代の参加の輪を広げていただきたい。

皇海橋で自己紹介を済ませ 10 時 10 分登山開始。樹林帯を少し登ってから不動沢の沢筋を詰めていく。1 時間半ほどかけて最後の急傾斜を登ると不動沢のコルに出る。ここから観る鋸山の険しい山容が素晴らしい。その後、稜線上の植生豊かな森の道で高度を稼いでいく。12 時 40 分、皇海山の山頂（2144m）は木々に囲まれておりガスも出てきて眺望は今一といったところ。ここで昼食休憩。恒例の谷上専属カメラマンによる記念写真。いつもの軽妙なやりとりに皆が沸いた。13 時 20 分、帰路は今来た道をそのまま戻る。急登のあとは急降下と相場は決まっていて、そこはベテランの用心深さで全員無事 15 時 40 分下山した。

その後三々五々、温泉組と直帰組に分かれて次回第 26 回 OB 山行、荒船山での再会を期した。

歩行距離約 7.2km、高低差 約 800m、所要時間 5 時間 30 分（休憩含む）

(写真提供
谷上氏)



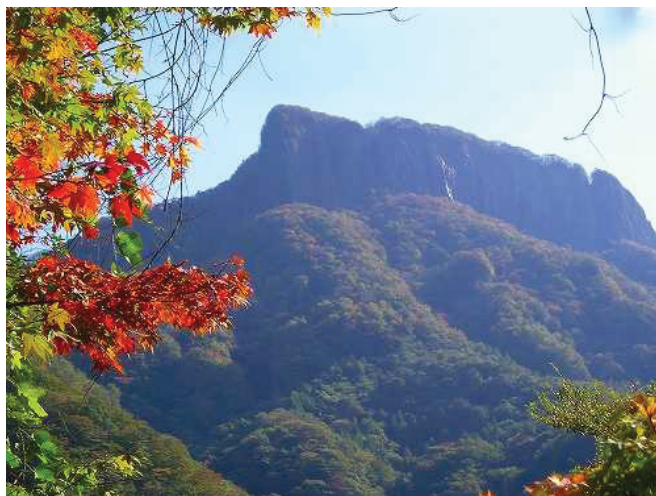
■ 第 26 回 OB 山行（荒船山）案内

OB 山行委員長 小野恵美子 (34 期)

次回の OB 山行は、独特の山容を呈する上州の山、荒船山です。

形が荒海を行く船に見えるので、この名が付いたとか。船尾から船首まで頂上台地ハイクが楽しめます。

秋の行楽シーズン、少し足を伸ばして一緒に山歩きを楽しみましょう。OB 山行初参加の方、大歓迎です。多くの方々のご参加をお待ちしております。



〔日 程〕 2009 年 10 月 17 日 (土)

〔行 先〕 荒船山 (あらふねやま) (1423m)

〔地 図〕 昭文社山と高原地図「西上州」

〔集合・交通〕 電車では登山口に到着時間が遅くなり余裕がないため、横浜、東京等からマイカーを出せる方に分乗して登山口に向かう予定です。

出発は、横浜近辺 5 時 30 分頃、東京近辺 6 時頃になると思います。

お申し込みの際、お住まいの場所とマイカーか同乗希望かをお知らせ下さい。

参加者が決まりましたら調整いたします。

上信越自動車道下仁田 IC から国道 254 号で内山峠へ。1~2 台下山地の相沢に車を止めておき、下山時に内山峠の車を取りにいきます。

登山開始は 10 時頃の予定。

〔行 程〕 内山峠 — トモ岩 — 荒船山 — 相沢分岐 — 相沢 [歩程 4 時間 10 分]

〔参加費〕 500 円 (写真代等)

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

〔温泉〕 荒船の湯 (500 円) 下山後ご希望の方はご用意を。

〔申し込み〕 参加ご希望の方は、10 月 7 日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。
(お住まいの場所と、マイカーか同乗希望かをお忘れなく)

小浜 一好 (17 期) 電話 : 090-8647-7275 メール : kohamak@dream.com

山口 貢三 (18 期) 電話 : 090-9962-7126 メール : k2ysyamaguchi@nifty.com

小野恵美子 (34 期) 電話 : 080-5517-7320 メール : emiko150@ezweb.ne.jp

■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 安藤貞利 (11 期)

今年の苗名小屋は、春スキーツアー、蕎麦と山菜を味わう会、近隣の名所巡り、草刈り、夏山登山(高妻山)とキャンプファイヤーの夕べ・・・と季節毎の楽しい行事で大いに賑わっています。

学生時代に戻ったかのように楽しそうに自然と戯れた参加者の声をお届けします。

みなさんもぜひ次回の行事に参加してみませんか。

スノーシューで三田原山登山

小野恵美子 (34 期)

早春の雪の小屋の新しい楽しみを見つけました。スノーシューです。

私は学生時代からスキーが苦手で、ゲレンデに出てもワングル御用達のサンアントンにいる時間のほうが長いくらい。スピード感がたまらない、などと言われますが、寧ろそれが恐怖で、雪の上をゆっくり歩いて楽しみたいとずっと思っていました。

そこで勧められたのがスノーシュー。これが最高でした。

去る3月の連休に数名で小屋入り。杉野沢まで車に乗せていただき、私は歩いて小屋に向かいました。

今回はスキーのレンタルはしないぞ、という固い決意のもと、です。



スノーシューで雪原を登る筆者

雪は少なく締まっていたので登山靴だけで十分歩けました。ザックの横に長ネギをつけて一人ゲレンデを登っていく私はかなり怪しかったと思います。途中で猿の群れを見て楽しんだりしながら、2時間強で小屋に到着。スキーヤーの白い目さえ気にしなければ、お勧めです。リフト代もかかりません！

翌日は朝から快晴。安藤氏(11期)、榎本氏(12期)、山口氏(18期)、笹倉氏(30期)は山スキーで、佐木氏(8期)、小口氏(14期)は登山靴で、そして私は小屋のスノーシューをつけて、三田原山に向かいました。

雪山は未経験、この日も散歩程度と思っていた私は何の準備もなく、サングラスもスパッツもストックも皆さんにお借りしました。どれも必需品です。反省。

スノーシューにはすぐに慣れ、雪上歩きを満喫しました。サイドにエッジが無いのでトラバースは難しく、直登でズンズン登ります。登山靴のみのお二人に比べ、沈まないのがスピードの差は歴然。スノーシューの威力がわかりました。これは快適です。

三田原山頂上付近まで約5時間。皆よく歩きました。

真っ青な空、真っ白な雪、遠くの山々、雄大な自然に囲まれ、何とも気持ち良かった。帰りは山スキー組は颯爽とすべり降り、歩き組はのんびり下りました。ビニール袋をお尻に敷いてソリすべりにも挑戦。もう少し改良すればこれも楽しめそうです。小屋に戻った頃はもう夕暮れでした。

積雪期の小屋の新しい楽しみ方を知り、大満足です。秘かにマイスノーシューを購入しようか考えています。マイナースポーツ、スノーシューを苗名小屋で流行らせたいなあと思いつつ・・・。

道の両側に咲くササユリに導かれて、城跡へ向かう。茶店のおばさんの言った通りの道である。山城歩きとは言ってもちょっとしたミニハイキング。十分標高を感じることができる。今は何も残っていないここ鮫ヶ尾城跡も、当時は人々が麓から城へ向かって歩いていた。天蓋の要塞とはいえ、自然を利用し、ここでの生活を可能にしていた昔の人は偉かったなどつくづく感心してしまった。山頂の展望台でしばし腰を下ろし、街を見る。城下を見下ろすとはこんな感じなのかしらと殿様の気分を味わったりして。山の上から日本海を見るのなんて最高にいい。



「随分、ごゆっくりでしたね」とおばさんに言われながら、熱いお茶の接待を受けた。このもてなしがとても嬉しかった。日本にも私の知らないいい所がまだまだいっぱいあるなど改めて思った。なかなか一人ではこれない所でもある。

小屋に着く。霧に煙る中、先輩達はちりぢりに庭に出て行く。なかなか戻ってこない。皆さん、嬉々として山菜探し。「これも食べられるよな？」とか言いながら戻ってくる。小さな鍋なので、なかなか揚げ終わらない。揚げたそばから皆さん、食されていく。そのうち、桐の箱に入れられて後生大事に持ってこられた、今夜の主演の登場である。茹で加減までしっかり事前講習を受けてこられた先輩のおかげで、ぼわーっとした光の中で一口食べたその味は、都会の蕎麦屋でも味わえないと思うほどの極上の味。山小屋でこのようなものが食べられるなんてと皆さん満足げ。話は尽きず、山小屋の夜は静かに、にぎやかに更けていきました。本当に楽しく、思い出深い一泊二日の妙高でした。

春日山城散策

親跡冬樹 (34期)

春日山城は「天地人」効果か、駐車場には県外ナンバーの車がびっしり。14期鈴木さんの案内でまず本丸に登りましたが、地元の観光客や遠足(?)の子どもたちでにぎわっていました。



春日山本丸跡



謙信公ゆかりの毘沙門堂

さらに鈴木さんの案内で城跡の建物跡(ほとんど何も残っていない)を巡り、12時ぐらいには降りてきました。そこで鈴木さんはお帰りになり、他のメンバーは鮫ヶ尾城へ。尾根伝いに本丸跡へ登り(こちらの城跡にも建物は残っていません)、3時過ぎには下山の途について小屋へ。

小屋では、味噌汁に諸角さんが採ったタケノコと、小口さんのお薦めで買ってきたサバ缶を入れてタケノコ汁を作りました。タケノコが柔らかくて最高だったと思います。ありがとうございます>諸角さん。

そして、東京から手打ちそばを持ってきて頂きましたが、これも大変美味しく頂きました。参加者一同感心しきりでした。ありがとうございます>松本さん。

秋の小屋行事

今年から始まった秋のゴールデンウィークに合わせて、小屋改修を実施します。南面壁の垂直化と一部床張り替えの予定です。住みやすい小屋にして、小屋活動を活発化していきたいと考えています。

皆様の時間に合わせて1日でも2日でもご参加下さい。現役の方の参加、大歓迎です。

- (日程) 9月19日(土) 資材買出し
- 20日(日) 南面壁取り壊し、土台組み付け
- 21日(月) 壁取り付け
- 22日(火) 床面一部取り替え
- 23日(水) 予備日

小屋仕舞い(冬支度)

10月31日(土)、11月1日(日) 雪囲い、水落とし、燃料の買出しと雪の降る前の準備です。紅葉も終わり、雪がやってくる前のひっそりとした小屋です。静かな散策ができます。

■ YWV ホームページの閲覧方法について

HP 委員長 吉村元孝 (3期)



ホームページをご覧になるには、いくつかの方法があります。

Yahoo や google の検索ページで YWV、横浜国立大学ワンダーフォーゲルなど大体のキーワードを入力して検索するとホームページが見つかります。

また、直接 <http://ywvob.com/> のアドレスを入力しても入れます。

ホームページは原則公開で作成されています。ただし、各期の近況などの非公開情報を閲覧するには、会員としてログインする必要があります。

「YWV 会員の入口」からユーザ名 (ywvob)、パスワード (obog) を入力するとログインできます。

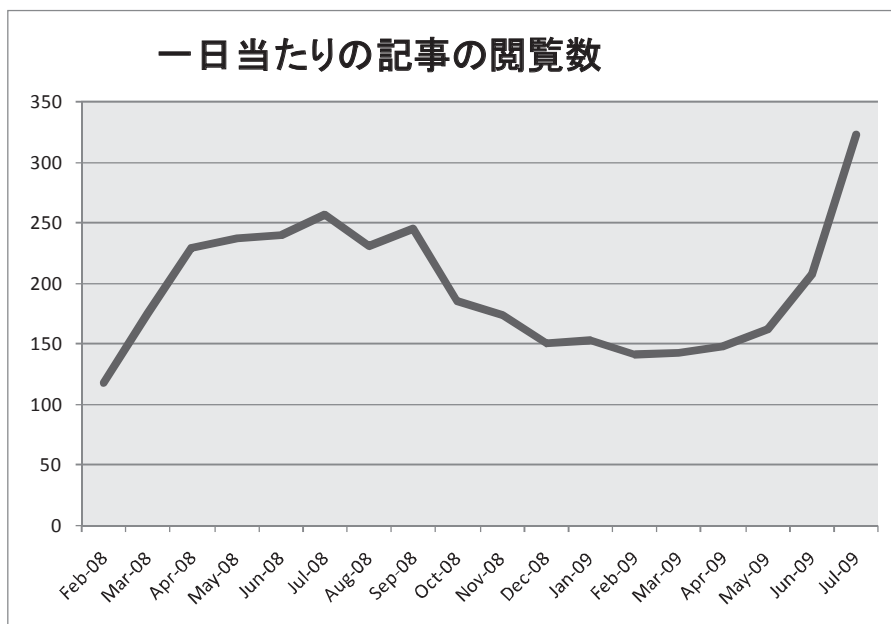
最近の主要な記事

- 雑誌「山と溪谷」8月号に 30 期宮崎氏がワンゲル時代の南アルプス縦走記を執筆・・・8月2日掲載
- 剣岳を苦勞して登らず、映画で愛でる・・・7月8日 掲載
- 蕎麦を称える三話・・・ 7月19日 掲載
- 春日山と直江兼続 歴史再発見・・・・・・ 7月25日掲載
- 各期の部屋 9期の分 更新 (9期の集い)・・・・・・7月19日更新
- 戸隠山を偵察 (苗名小屋経由) 12期榎本氏・・・・・・ 7月4日掲載

最近の閲覧状況

HP への閲覧状況は一日あたり平均 50 人です。また、一日に見る頁数は年初の 150 頁から最近では 300 頁を超えております。興味深い記事があると回数が増えています。

皆さんの同期の集まり、プライベートの山行など HP への投稿をお願いします。



■ YWVOB 会メルマガの発行について

総務副委員長 武藤功二 (20 期)

OB 会員への情報伝達手段として、当会報およびホームページがありますが、会報は年 3 回の発行であり、またホームページは閲覧しないと情報が届かず、なんとかタイムリーにお伝えできる方法はないかと検討してきましたが、この度インターネットを利用したメールマガジン (メルマガ) を発行することとなりました。

当初は試行錯誤だったものの、2009 年 4 月 5 日の創刊号、4 月 26 日の臨時号、5 月からは定期刊行号として、毎月第 1 日曜日を目標に現在まで計 6 回発行しています。

送信アドレス数も初回の 283 通から最新号の 344 通にまで、名簿係の渡邊さん (36 期) と連携して 1 期から現役 52 期までのみなさんに配信するまでになりました。

みなさんのご協力に感謝するとともに、理系で文才のない私の能力を考慮いただき、今後とも積極的な投稿をよろしくお願い致します。

またすでに、各期の代表者の方には依頼させていただいておりますが、メールが未だ配信されていない方、下記のメールアドレスか、会報に同封されていますハガキにてメールアドレスの連絡をお願い致します。

メール送付先 : soumu-ywvob@yahooogroups.jp

※ 8 月号メルマガの一部をご紹介します。(PC 用)

期	様
本メールは OB 会名簿および各期メール管理者からの情報をもとに送信させていただいております。メールアドレスにつきましては、特にお申し出がないかぎり OB 会名簿へ反映させていただきますので、よろしくお願い致します。	
昨日の OB 役員会にて 11 月 8 日の HCD にあわせて OB 総会を開催することになりました。HCD にてメイン講師の中西準子先生は湘南 3 大賢女の一人として呼び声が高いようですが、では湘南三大美女とは誰でしょう? (答えは一番最後にあります)	
☆☆☆ YWVOB 会メルマガ 定期刊行 VOL.4 2009 年 8 月号 ☆☆☆	
.....	
1. 役員会だより	
.....	
1) 山小屋山行のご案内 : 山口 (18)	
苗名小屋をベースに高妻山に登ります。	
〔日 程〕 2009 年 8 月 15 日 (土)	
〔行 先〕 高妻山 (たかつまやま) (2,352m)	
〔予定・交通〕 8 月 14 日 午後 1 時横浜方面から出発、なえな小屋泊	
8 月 15 日 5:00 戸隠牧場駐車場集合 5:30 出発、15:00 下山	
8 月 16 日 9:00 なえな小屋発 15:00 東京着	
〔行 程〕 戸隠牧場駐車場—不動避難小屋—五地藏山—高妻山—六弥勒—弥勒	
尾根新道—戸隠牧場—駐車場 [実動 7 時間 50 分]	
ルートは、一不動まで少し鎖場がありますが、後は尾根沿いで最後に	
300m の急登があり、少々きつめです。夜は、裏庭でキャンプファイヤー	
を楽しんで山の疲れをとりましょう。	
〔参加費〕 500 円 (写真代等) 交通費目安 : マイカー同乗 3 人で 3000 円 / 人前後	
〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物	

■ 第4回 横浜国大ホームカミングデー案内

早坂 宗 (8期)



～ 広げよう YNU 交流の輪 ～

平成21年11月8日 (日)

今年には横浜国立大学になって60周年、一番歴史のある教育系の開学から135周年にあたります。大学主催で60周年記念式典が同日に行われますが、ホームカミングデーもこれと連携して実施いたします。HCDも今年で4年目を迎え内容も充実。関係者が一堂に集まるのはこの日だけです。世代や学びの分野を超えての交流を広げ、お互いの価値を高めましょう。尚、交流会以外は入場無料ですが、寄付金で運営されますのでご協力頂ければ幸いです。

～ タイムスケジュール ～

- 10:00 ～ 講演、演奏、研究発表、キャンパス探訪 等
- 13:30 ～ 14:45 メイン講演 中西 準子 先生
元 横浜国立大学教授
(現 独立行政法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門長)
- 15:00 ～ 17:00 交流会・60周年祝賀懇親会
参加費 (当日支払い4,000円) (事前振り込み3,000円)
尚、本学卒業・修了25年目(1984年卒)の方は無料ご招待です!!

【中西 準子 先生 プロフィール】

1961年に本学工学部卒業、元横浜国立大学教授。2003年4月29日には紫綬褒章を受章、記念講演等をまとめた『環境リスク学—不安の海の羅針盤』が毎日出版文化賞を受賞。2008年横浜文化賞を受賞。ご専門分野は「環境リスク管理、リスク評価」。2008年より現職にてご活躍中。

- ※ 横浜駅～大学キャンパスに専用のシャトルバスを運行する予定です。乗り場、時刻表は決まり次第HPに掲載します。降車時に100円のカンパをお願いします。
- ※ 当日OB総会に参加して懇親会(交流会)に参加される方に、YWVOB会より1,000円が懇親会費補助として支払われます。

【問い合わせ先】

ホームカミングデー事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 横浜国立大学内 教育文化ホール HCD ルーム

TEL : 045-339-3158 (不在の時もあります)

e-mail: hcd@ynu.ac.jp

ホームカミングデーHP <http://homecoming.ynu.ac.jp/>

＜山と短歌と私＞

永田 多恵子 (4期・仙台市)

「山の風」二十首詠

四百年のぶなの大樹に風立ちぬ山神 (やまつみ) の声を聴けとごとくに

ぶなの森に木霊を聴けば安らぎぬわれも連なる生きものの輪

山の気の常より濃くも漂えり霧立つぶなの森の鎮もり

ザック背負いぶな林深くさまよえば水得し魚のごとく風吸う

山恋うは父恋う思いかぶな林の懐深く歩みて行かな

ぶなの森ぬけて高みに会いに行かん山の貴婦人衣笠草に

小さき蘭ひっそり咲ける山道のしじまを揺らす白きともしび

樹と土と水の匂に目覚めたる五感たしかに梅雨の山行く

大汗も日焼けもいとわぬ山歩きただ稜線の風を聴きたく

青き羊歯そよがせ漂う風穴の冷氣は太古の山の吐息か

縄文人のDNAの濃きわれか目ざとく見つける草むらの独活 (うど)

ふるさとの山にいくたび放ちしかわが春愁を風に託して

疑いも怖れも知らず魅 (ひ) かれゆき山に抱かれし青春愛 (いと) し

オカリナにハモリし遠き山の歌テントの友の還らぬ笑顔

豊かにも色づき初めしぶなの森満ち足り歩む木もれ日の中

木もれ日はぶなの林にたゆたいて黄葉 (もみじ) うながす耀 (かがよ) いやさし

黄落のぶなの林に佇めば湯浴みするごと身の清めらる

羚羊 (かもしか) の体液朱く雪を染め眠らぬ山の営み熱し

鉄琴のさまに生いたる岩つらら触るれば奏でん星のメロディー

雪山に置いてけぼりのストックは細き身震わせわれを待ちいん



新潟・春日山のササユリ
09/6/6 YWVHP より

(2008年 宮城県短歌賞 第1席入賞作品)

「心の山」十首

職退きし夫との初旅越の山 片栗、雪割草（ゆきわり）じゅうたんのよう

巢立ちしも子らの歓声風に聴く五月五日の泉ヶ岳の

六月のサラダはさくさく雪溪を踏みしめる音山が呼んでる

滝しぶきを草鞋にうけて遡（さかのぼ）る谷の緑のしたたりの中

鈴生（すずな）りの野猿（さる）の視線に射すくめらる人間だけが偉くはないさと

憧れの止まず遙かなヒマラヤに叶わぬ夢のブルーポピーよ

登り来て樹海の広がりほしいまま大雪山は輝くプラチナ

黄葉のぶなの深山にひっそりと白蝶のごと生うる針茸

山藪のブランコ揺らし野遊びを教え給いし父の風来る

ケンケンパー雪の面（も）かける野うさぎの跡を追いたし森の奥処（おくど）へ

（地中海・湾往来誌より）

「貂（てん）からの贈り物」——わが短歌入門の記

それは平成14年11月下旬、小春日の午後2時すぎ、友人3人と泉ヶ岳（いずみがたけ）から下山して来て野外活動センターの道に出た時のこと。

中の一人が「シーッ」と指さす先10メートル程の落ち葉の林を、匂いを辿っているように俯きながらゆっくりと横切って行く貂に出逢った。その間数十秒だったろうか、輝く金色、胴長、黒い手足、ふさふさの尾、ピンと立った耳。何と美しい！皆息を呑んで立ちつくした。

帰宅して調べると間違いなく冬毛の貂。通常貂は夜行性で、愛らしい姿に似ず小動物や鳥、昆虫も捕る森のハンターとある。初めての、しかもこんな真昼間の出逢いに胸がいっぱいのいち日となった。

それ以来、目を瞑れば金色の貂がまるでアニメの主人公のように、森や原っぱや夜空の月や星に向かってまでも、金色の雫をふりまきながら自由に駆け回る姿が思い浮かび、私をメルヘンの世界へと誘ってくれた。

この感動を何とか詩の形に残したい・・・と思いはじめ、まず俳句会の門を叩いた。

○ 貂行くや樹間に残る金の影

しばらくして初孫の命が宿ったという知らせにひたすら無事の誕生を祈る気持が自ずと三十一文字になり、平成17年1月近くの市民センターの短歌会に入会。後に俳句は退会した。

それまでの私は新聞の俳壇、歌壇、大岡信氏の「折々のうた」は永く愛読していたが、自分で作りたいとは思わなかった。

素晴らしい師と会友に巡り会い、心の中に積もって行き場のなかった喜怒哀楽がほとぼしるように短歌となり、これまでに千五百余首の添削指導を受け、短歌は私の新しい伴侶となった。

- 金色の貂に出逢いしあの日より心に湧きぬ歌の泉は
- 歌紡ぐ秘かな技を知りてより裡（うち）にそよ風吹き入るごとし
- 高らかにまたひそやかに歌詠まん心自在に「われはわれなり」

「山の風」「心の山」は私の半生の山との関わり、山から受けた感動や恵みへの感謝の思いを形見にするつもりで投稿、思いもかけぬ大きな賞をいただいた。

短歌の世界の広がりには私に心の解放、学ぶ楽しさ、生きる意欲を次々に与えてくれる。

泉ヶ岳の貂よ、ありがとう。

（2009.4 記）

■ YWV 現役部員の活動紹介

主将 茂呂将典 (51 期)

春合宿報告記 (3月5日～14日)



春合宿は昨年と同じく、屋久島に行ってきました。またか、という声が聞こえてきそうです。しかし今回は、前回訪れたとき、積雪のため通れなかった淀川からのルートのリベンジという意味もありました。

しかし、計画の段階から問題が浮上。原油高騰を理由にフェリーハイビスカスの夜行便が廃止されていたのです。フェリーで波に揺られながら一夜を過ごすのも楽しみだったので、これは残念でした。

屋久島での行程は、淀川から入り、黒味岳、宮之浦岳を縦走、縄文杉やウィルソン株などの観光地をめぐり、白谷雲水峡にぬけるという一般的なもの。

ですが、昨年は踏めなかった、九州最高峰の宮之浦岳を堪能し、雨に降られたりもしたものの（それもまた屋久島の醍醐味）、本州とはまた違った自然の中で充実した時間を送ることができ、みな満足の春合宿となりました。

屋久島のあとは、希望者で九州本島に渡り、阿蘇山、九重山、由布山と有名どころを巡りました。

新入部員紹介

この場を借りて、新入部員の紹介をしたいと思います。

今年入部したのは吉田、佐藤、三國、原の4名。誌面の都合上詳しく紹介はできませんが、よく知りたい方は下記のホームページをご覧ください。（原はまだ山に行っていないので、写真がありませんでした）

※ 現役部員のホームページ <http://www25.atwiki.jp/ynuww/>



佐藤



三國

吉田

今後の予定

夏合宿・・・8月23日から5日間、北岳を中心に南アルプス縦走を計画しています。

学園祭・・・10月30日から11月1日の3日間、学祭でカレー屋を営業します。
お誘いあわせの上、ぜひご来店ください。

■ OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎 (2期)

会報 42 号に同封いたしました払込取扱票は、2010 年度年会費、前納会費、寄付、名簿代金等をお振込いただく用紙です。

ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATM からお振込みください。

払込手数料は3万円未満の場合、窓口 120 円、ATM 80 円です。

- ・年 会 費：2,000 円 (09 年 10 月から 10 年 9 月までの 2010 年度の年会費)
(払込取扱票に「今年度会費は納入不要です」という表示がある人は納入不要です)
- ・前 納 会 費：10,000 円 (2010 年度～2015 年度の 6 年間の年会費前納分)
- ・寄 付 金：(一般、小屋) どちらかを○で囲んで
- ・最新名簿代金：500 円 (郵送希望者のみ)

払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

口座番号：00290-3-2419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲル OB 会

★他の銀行からの振込み

他の銀行からも振り込むことができます。その場合、口座番号は下記のようになります。

振込手数料は 210 円 (3 万円未満) です。

金融機関：ゆうちょ銀行 (9900)

店 番：029

預金種目：当座

店 名：〇二九店 (ゼロニキュウ店)

口座番号：0002419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲル OB 会

■ OB会報の発送とOB会費未納について

編集委員長

会計幹事

OB 会報の発送方法については、2005 年度より OB 会費未納会員へは年一回の総会案内号以外の会報は発送しないこととなりました。

今回の OB 会報第 42 号は総会案内号ですので全員に発送いたします。

下記会報発送方法をご理解いただき、OB 会費納入にご協力いただきますよう、あらためてお願いいたします。

《 OB 会 報 の 発 送 方 法 》

1. 過去5年間、OB会費未納の会員(入会后 10 年以内の会員を除く)については、総会案内号を除きOB会報の発送を停止します。
2. OB会費振込用紙及び総会出欠ハガキを同封する号(総会案内号)は、会員全員を対象に発送します。

■ 編集委員からのお知らせ

【訃報】池谷文明氏（16期）が2009年5月5日に亡くなりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

池谷さんはYWV50周年事業に積極的に協力をいただき、準備委員会にも良く出席してご意見を述べておられました。昨年春には苗名小屋の雪下ろしにもご参加くださいました。

○花図鑑「かながわの山に咲く花」ができました。

4期の谷上氏ら神奈川県自然公園指導員連絡協議会の有志が3年がかりで丹沢、富士・箱根、小仏・陣馬に咲く花503種類の写真と、それに関連した面白い話をそえた図鑑です。

また この本の発刊に伴い「かながわの山に咲く花」の写真展も開かれます。

※9月4日（金）～6日（日） 横浜駅の近く「神奈川県民サポートセンター」にて
（詳しくはYWVのHPに掲載中）

○一昨年、50周年記念で海外登山をしたメンバーが今年は濟州島・ハルラ山の登山に行きました。
韓国で人気の山で山頂は富士山のように賑やかだったとか。

（写真は4期郡司直樹氏撮影）



賑やかな山頂
09/5/1



山頂のお鉢巡り
（今は登山禁止）

○編集部員を募集しています。

YWVOB会報を一緒に作ってくださる方を募集しています。

現在2名の編集委員で年3回発行しています。編集作業は自宅のPCで、発送は2時間ほど一緒に楽しくおしゃべりをしながらの作業です。

企画、校正、編集、カット、写真などいろいろな分野の作業があります。できることを一緒にやってみませんか。

○編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。

自由投稿コーナー、名人紹介コーナー等の原稿、写真、スケッチなどどしどしお寄せ下さい。

宛先 下村 蓉子（10期）shimomurayouko@ybb.ne.jp

松本真理子（8期）marihiro@cc.catv-yokohama.ne.jp



濃霧の登山道に突然現れた雷鳥のつがい
09.8.7 立山にて
7期 林誠一氏撮影

YWVOB 会会報第 42 号

発 行 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日 : 2009 年 9 月 1 日
発 行 責 任 者 : 鈴木弥栄男(9)
編 集 責 任 者 : 編集委員長 下村 蓉子(10)
編 集 集 : 編 集 委 員 松本真理子(8)
印 刷 所 : 株式会社 カワチャ・プリント (東京都港区新橋 5-31-7)
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。